

港神 7月コンテナ実績 神戸伸長、大阪は減

【関西】阪神港(神戸港、大阪港)の7月コンテナ取扱個数(最速報値、空コンテナ含む)は、神戸と大阪で異なる動きを見せた。神戸港は主力の輸出が好調で取り扱いを伸ばす一方、大阪は得意とする輸入貨物が低調に推

移しマイナスとなった。関西の物流関係者は今後について、アジアでのコロナ禍が足かせ要因となると指摘する。

神戸市港湾局、大阪港湾局の各まとめによると、神戸港の7月の輸出入合計は前年同月比

5%増の17万8618TEUだった一方、大阪港は4%減の17万2064TEUだった。これで神戸は3カ月連続増、大阪は2カ月連続減となった。

内訳は、神戸港は輸出

が7%増の9万4625TEU、輸入が3%増の8万3993TEU。大阪港は輸出が5%減の7万7094TEU、輸入は3%減の9万4970TEU。

輸出に強い神戸港は年初来からの輸出の増加基調を維持し、取扱個数の底上げにつながった。これに対し、背後地に全国有数の消費圏を抱える大阪港は、主力の輸入が6、7月と伸び悩んだのが響いた。

大阪港は輸出も減少したが、空コンテナの取扱個数が大幅に減ったのが要因で、実入りの輸出コ

ンテナに関しては神戸港同様に好調を維持している。7月の大阪港の実入り輸出は14%増の3万6129TEUで5カ月連続のプラス。

関西発着のコンテナは2021年に入り、米中間の貿易拡大や世界的な巣ごもり需要の間接的な効果により、輸出の回復が目立つ。一方関西の物流関係者からは、アジアでのコロナ禍再燃は輸出入双方でマイナス要因との声が出ている。